

## 令和 7 年度 横川中央小学校 学校評価書

## 1 教育目標（目指す児童像含む）

## (1) 基本目標

- ・「人権尊重の教育」を基盤とし、学びに向かう力や豊かな人間性の涵養を図る教育活動の実践を通して主体的・創造的に生きる、人間性豊かなたくましく生きる児童を育成する。

## (2) 具体目標（目指す児童像）

- ・思いやりのある子ども（思いやり星）
- ・よく考え進んで学ぶ子ども（学び星）
- ・健康でねばり強い子ども（健康星）
- ・働く喜びを知る子ども（働き星）

## 2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「思いやり・健康・働く喜び・共に学ぶ 楽しい学校」

子どもたちが夢を抱き、未来に向かって成長し続けるための基盤を培うべく、愛情と使命感をもって、全力で教育にあたっていく。そして、思いやりがあり、生き生きと学ぶ児童を育成し、児童・教職員・保護者・地域が共に学ぶ楽しい学校を目指す。

楽しい学校とは

- (1) 児童にとって、わくわくして登校し、楽しい一日を過ごし、満足して下校できる学校
- (2) 教職員にとって、自分のもてる能力を十分に発揮できる、やりがいのある学校
- (3) 保護者にとって、安心して子どもを通わせ、積極的・主体的に協力できる学校
- (4) 地域にとって、信頼でき、積極的・主体的に協力できる開かれた学校

## 3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

## (1) 学校運営の適正化

創立 152 年目を迎える本校の歴史と伝統を継承し、児童・地域の実情を踏まえ、学習指導要領に基づき、学校や児童の実態に即した創意ある教育課程を編成する。児童を主体とする活動の充実を図ると共に、地域の教育力の導入を推進し、活気あふれる学校づくりに努める。

## (2) 教職員の資質の向上

教育公務員として法令を遵守するとともに、人づくりの使命感に立ち、学校や保護者・地域の実態を踏まえた実践的な研修に励み、自身の資質向上を図り、和と協働を基盤に、教職員一人一人の特性やよさを生かし、児童・保護者と共に学校づくりに努める。

## (3) 学年・学級経営の充実

児童一人一人の個性等に配慮し、居がいのある学級づくりと、活力に満ちた教育活動の展開のための学級力向上に努める。

## (4) 学習指導の充実

児童主体の分かる授業、楽しい授業の展開に向けた授業力の向上に取り組み、基礎・基本の確実な定着を図り、思考力・判断力・表現力等を重視した体験的・問題解決的な学習を推進すると共に、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた研究を推進する。

## (5) 豊かな心の育成

「特別の教科 道徳」を核とした指導と共に、様々な体験活動を通して、生命尊重・思いやり・感謝・勤労・奉仕等の豊かな心の醸成等を重視した教育を推進し、心豊かでたくましく生きる児童の育成に努める。

## (6) 児童指導の充実

全教職員の認識を共有し、児童・保護者・教職員間の信頼関係を深め、児童一人一人に寄り添い、気持ちを受け止める等、共感的理解に基づいた人間関係を確立し、日常のふれあいを通して、基本的な生活習慣や集団行動の徹底を図るとともに、社会性の育成に努める。

## (7) 健康教育（体力向上、保健教育、食育、安全教育）の充実

児童が健康で安全な生活を送るために必要な資質・能力を高めていけるよう、体力向上、保健教育、食育、安全教育を計画的かつ体系的に推進し、学校の教育活動全体を通じた指導の充実を図る。

## ○ (8) 地域学校園・小中一貫教育の推進及び特色ある学校づくり

地域の教育力を生かし、家庭・地域・関係諸機関との連携・協働を図りながら、充実した地域学校園・小中一貫教育の実践に努める。また、児童が主体となった勤労生産活動や奉仕的活動を積極的に取り入れた、特色ある学校づくりに努める。

#### (9) 地域とともに歩む学校づくり

地域の教育力の活用及び発掘を推進すると共に、年間を通してのフリー参観や土曜授業等の実践により、学校と保護者・地域等の信頼関係を深め、地域とともに歩む学校づくりに努める。また、地域協議会・地域諸団体と連携・協働し、地域に根ざした学校づくりを目指す。

#### 【横川地域学校園教育ビジョン】

「豊かな心の育成を目指す 横川地域学校園の小中一貫教育」

～自分・人・地域を大切に、主体的に行動できる子どもの育成を目指して～

### 4 教育課程編成の方針

- (1) 教育課程の編成に当たっては、公教育の立場から日本国憲法・教育基本法・学校教育法及び同施行規則並びに小学校学習指導要領の基準に基づいて編成する。
- (2) 学習指導要領の基本的なねらいである、基礎的な知識及び技能を習得させること、習得した知識や技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育むこと、主体的に学習に取り組む態度を養うことの実現に向け、それらにバランス良く取り組める教育課程を編成する。
- (3) 「栃木県教育振興基本計画2025」に示された基本理念である「とちぎに愛情と誇りをもち 未来を描き、ともに切り拓くことのできる 心豊かでたくましい人を育てます。」を目指し、「とちぎの子どもの基礎・基本」に基づいた教育課程を編成する。
- (4) 宇都宮市「第2次学校教育推進計画(うつのみやいきいき学校プラン)」を基に、その施策の柱である学習指導・児童指導の充実、未来を生き抜く力の育成、情報活用能力の育成、また、地域学校園(小中一貫教育)を生かした学校運営を円滑に実施していくことを考慮して編成する。
- (5) 本校教育目標・本年度の経営方針や努力点・学校課題等を踏まえるとともに、地域社会の要望、保護者の願い、本校の実情や児童の実態・特性等を十分に考慮して編成する。
- (6) 前年度の成果や反省を生かすとともに、各教科、特別な教科道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の4領域の関連を図り、調和と統一のある編成に努め、ゆとりある充実した教育課程を編成する。(教科横断的な視点より)

### 5 今年度の重点目標(短期的視点) ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

心豊かで思いやりがあり、生き生きと学ぶ子どもの育成に努める。

～ 認めて 褒めて 励まして ～

#### (1) 思いやりの心の育成

「特別の教科 道徳」を核とした心の教育の充実や、人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動の推進を図る。

#### (2) 学力向上

主体的・対話的で深い学びを促す学習指導と評価の工夫・改善(授業力の向上)や、子どもたちの良好な人間関係(学級力)を高め、学びに向かう力や豊かな人間性の涵養を図る。

#### (3) 健康教育

体力向上、保健教育、食育、安全教育の指導を充実させ、健康で安全な生活を送るために必要な資質や能力を高め、自ら考え行動できる児童の育成を図る。

#### (4) 地域と共に歩む学校づくり

家庭・地域並びに地域学校園の教育力を積極的に活用し、活気あふれる学校づくりに努める。

#### 【学校運営】

- ・教職員が児童と向き合える時間の確保に向け、校務分掌の平準化をはじめとした、業務の効率化に努めると共に、出退勤時刻の管理に係る取組により、労働時間の適正化を推進する。
- ・共同的な学びの実現に向けて、教職員自らが学び合い、授業力や学級経営力等の資質の向上に向けた取組の推進に努める。

○ 主体性と独自性を生かした学校経営を推進すると共に、地域学校園に係る事業の効果的で円滑な運営に努める。(乗入授業、研究授業、相互授業観察等の交流、外国語教育に係る授業力向上を図る取組の充実等)

**【学習指導】**

見方・考え方を働かせ、学び合う児童の育成」～「深い学び」の視点からの授業改善～

- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、上記のテーマで研究に取り組む。

**【児童生徒指導】**

学校や社会の決まりやマナーを守り、お互いのよさを認め合える児童の育成

- ・道徳的な判断力、実践力を育むとともに、体験活動や読書活動の充実により豊かな感性を育む。
- ・いじめ防止基本法に基づき、「特別の教科 道徳」や児童会が主体となった集会活動など様々な教育活動の場の設定により、児童の規範意識や正義感、思いやりの心の育成に努める。

**【健康（体力・保健・食・安全）】**

健康で安全な生活を送るために必要な資質や能力を高め、自ら考え行動できる児童を育成

- ・教科指導の充実や、学校行事、児童会活動等の機会を通じた、運動に親しもうとする態度・能力の育成に努める。
- ・自己の健康状態について関心をもち、健康な生活を送るための基本的な生活習慣の育成を図る。
- ・食事の重要性や栄養バランス等、よりよい食生活についての指導を行う。
- ・危険を予測し、自分の命を自分で守り抜く行動力の育成を図る。

**6 自己評価** A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	<p>A 1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 <b>学び星</b></p> <p>【数値指標】            ⇒児童の肯定的割合 90%以上            ⇒教職員の肯定的割合 90%以上</p>	<p>① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の問題意識を高める授業の導入や授業展開の工夫</li> <li>・宇都宮モデル「はっきり！じっくり！すっきり！」の授業展開</li> <li>・話し合い活動や対話的授業の工夫</li> </ul> <p>② 学校課題「主体的に考え、学び合う児童の育成」を実現するために、教職員の授業力向上の推進を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相互に授業を見せ合い、児童の姿から学びを振り返る研修</li> <li>・外部指導者による指導助言を得ながら、教員同士が学び合う授業研究会の継続的实施</li> </ul> <p>③ 学業指導の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケートをもとに、実態に応じた支援を工夫</li> </ul>	B	<p>【達成状況】  <b>児童の肯定的回答率 89.3%</b>  <b>教職員の肯定的回答率 96.3%</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の目標値は下回ったが、教職員の目標値は上回った。</li> <li>・「見方考え方を働かせ、学び合う児童の育成」という研究主題のもと、外部講師から指導・助言を受けたり校内一人一公開授業を継続して行ったりし、教員が授業力の向上に努めた。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・深い学びの視点からの授業改善に向け、授業を相互に見せ合う機会や研修を継続し、教員同士が学び合い高め合う授業研究会を実施する。</li> </ul>

A2 児童は、思いやりの心  
をもっている。  
**思いやり星**

【数値指標】  
⇒児童の肯定的割合  
90%以上  
⇒保護者の肯定的割合  
90%以上

- ① 教育活動全体を通して、人権教育を推進し、違いを認め、他を尊重する態度を育てる。
  - ・縦割り班活動・勤労の奉仕活動における異学年交流や体験活動の充実
  - ・思ちゃんコーナー、思ちゃんカードの積極的な活用
- ② 毎日の振り返りや授業を通して、生命や人権を尊重する心、人を思いやる心などを育成する。
  - ・経験や体験活動等と関連を図り、自分ごととして捉え主体的に考える道徳科授業の展開
  - ・朝の会や帰りの会等における自他の違いやよさを認め合う場の工夫

**B**

【達成状況】  
児童の肯定的回答率 86.3%  
保護者の肯定的回答率 92.9%  
・児童の目標値は下回ったが、保護者は上回った。  
・年間を通して「思ちゃんコーナー」の充実努めた。外部機関や異学年交流を通して思いやる心の育成を図った。  
・児童会主催のいじめゼロ集会で、友達を思いやる態度の育成に努めた。

【次年度の方針】  
・今後も継続して取り組み、思いやりの心をもった児童の育成に努める。  
・人権教育活動のさらなる活性化を図る。

A3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。  
**健康星**

【数値指標】  
⇒児童の肯定的割合  
90%以上

- ① 自己のめあてや目標に向かってあきらめずに取り組めるよう認めて褒めて励ます個に応じた指導や支援に努める。
  - ・自主的・主体的にそれぞれの学校行事やイベントに取り組めるようにするため、学校行事や児童会活動、各種検定等で立てた目標を振り返る時には、結果及び過程における自己の姿を振り返らせる。
  - ・学級活動や児童会活動などにおいて、児童主体の活動を計画・実現することで、取組への満足感や達成感を得られるよう支援する。
- ② 四つ星表彰や宮っ子教育表彰などを通し、児童が目標達成に向けて努力したことを称賛する。

**B**

【達成状況】  
児童の肯定的回答率 85.5%  
・目標値を下回った。  
・個に応じた指導や支援を今後も継続して行い、達成感を得ることで、粘り強く取り組む姿勢を育てる。  
・継続して、全校をあげて、学習や生活、清掃活動の頑張りを認める「めざせ四つ星マスター」の取組や、「読書の鉄人」の達成など、児童が意欲的に取り組む姿が見られた。

【次年度の方針】  
・学校行事に児童が主体的に関わったり、児童会による新たなイベントの開催、各種検定の内容の工夫などをしたりすることを通して、児童が行事等に積極的に取り組めるようにする。キャリアパスポートなどを活用し、めあてを立てさせて振り返りをし、成長を実感できるようにする。  
・四つ星表彰や宮っ子教育表彰などを通し、互いに認め合う場を設ける。励ましの機会を設けるとともに、目標達成に向けて努力している児童を称賛する。

1- (3)  
健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進

A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。**健康星**

【数値指標】  
⇒児童の肯定的割合 90%以上  
⇒教職員の肯定的割合 90%以上

- ① 児童が健康な生活を送ることができるよう、日常的に指導するとともに学級活動や教科体育における指導の充実を図る。
  - ・定期健康診断の結果や元気っ子生活習慣の結果を活用し、自分の体に関心をもつとともに、よりよい生活習慣についての意識を高める。
  - ・学校給食と各教科等との関連を図り、栄養バランスのとれた食事やマナーの大切さ、望ましい食習慣の形成を図る指導の充実。
- ② 危機を予測し、自らの命を守る行動力を育成するために、日常の安全指導を充実するとともに、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施する。

**【達成状況】**  
児童の肯定的回答率 89.5%  
教職員の肯定的回答率 92.6%

- ・教職員は目標値を上回ったが、児童は下回った。また、児童・教職員ともに昨年度より肯定的回答が減少している。
- ・保健教育及び保健管理について、個別指導は充実していたが、学校全体や学年、学級等の集団指導が不足していた。
- ・教科体育や学級活動、日常における指導の充実により、児童の健康や安全についての意識が高めようと努めた。
- ・児童の食育に関する関心や望ましい食習慣を形成するために、食育に関するイベントや委員会活動の取組等をした。

日常の安全指導や避難訓練などにより、児童の危機意識が高まり、自他の命を守る行動力を育成することができた。

**【次年度の方針】**  
・児童の実態や課題について教職員で共通理解を図り、様々な場面において、健康や安全に気を付けて生活できるよう指導の充実に努める。

1- (4)  
将来への希望と協働する力を育む教育の推進

A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。**思いやり星**

【数値指標】  
⇒児童の肯定的割合 90%以上  
⇒教職員の肯定的割合 90%以上

- ① 授業や生活の振り返り活動を重視する。児童が発揮したよさや努力、協力するよさを自覚できるような自己評価や相互評価の場を設けて、自己存在感の高揚を図る。
- ② 教室の思ちゃんカードや学級活動の掲示コーナーを積極的に活用し、児童相互に認め合う場を多く設ける。
- ③ 教職員は気付いた児童のよさや姿を共有し合い、進んで声掛けを行うなど認めて褒めて励ます指導に努める。

**【達成状況】**  
児童の肯定的回答率 85.3%  
教職員の肯定的回答率 96.3%

- ・教職員の目標値は上回ったが、児童は目標値を若干下回った。
- ・授業や学校行事など、学校生活全般の振り返り活動を重視し、自己評価や相互評価の場を設けることで、自己存在感の高揚を図った。
- ・児童相互に認め合う場を設定することで、自尊感情や自己有用感の高揚を図った。

**【次年度の方針】**  
・授業や生活の中で、一人一人が自分のよさや頑張りを自己評価したり互いに認め合う場を数多く設定したりする取組を継続する。

<p>2- (1) グローバル 社会に主体 的に向き合 い、郷土愛 を醸成する 教育の推進</p>	<p>A 6 児童は、英語を使って コミュニケーションして いる。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上</p>	<p>① 外国語活動や外国語の授業を通 して、言語や文化について体験的 に理解を深め、英語でのコミュニ ケーションを図ろうとする活動を 積極的に展開する。 ② 授業以外にも、休み時間や給食 の時間など、ALT と英語でのやり 取りをする機会を設け、児童が英語 にふれる機会を多くする。 ③ 日常的に使えるフレーズを用い た掲示物を作り、積極的に使って いくことで、英語に触れる機会を 増やしていく。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 81.3% 教職員の肯定的回答率 92.6% ・児童は目標値を下回った。 ・授業の中で互いにコミュニケーション をとる姿が見られた。英語の掲 示物などで意識の高揚を図った。 【次年度の方針】 ・日常生活の中でALT と関わる機会 を増やし、英語に触れる機会を増や し意識を高めるようにする。</p>
	<p>A 7 児童は、宇都宮の良さ を知っている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上</p>	<p>① 総合的な学習の時間や生活科、 社会科における地域の学習におい て、児童が身近な地域や宇都宮市 のことに興味をもつような 教材や授業展開の工夫を行う。 ② 給食の「宮っ子ランチ」や地産 地消献立に関わる資料作成や放 送、給食だよりを通して、宇都宮 の歴史や良さを紹介し、関心を高 める。 ③ 図書館の宇都宮関連の常設コー ナーの充実を図ったり、宇都宮に 関連する本を読み聞かせたりす る。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 81.3% ・目標値を下回った。 【次年度の方針】 ・1・2年の生活科や、各学年道徳 の地域教材、3・4年の社会科、5・ 6年の総合的な学習の時間の中で、 宇都宮のよさを意識できるように、 学習活動を工夫する。 ・給食の「宮っ子ランチ」や地産地 消献立に関わる資料作成や放送、給 食だよりを通して、宇都宮の歴史や よさを紹介し、関心を高める。 ・宇都宮の民話の読み聞かせを通し て、宇都宮に対する関心を高められ るようにする。さらに、宇都宮の民 話の絵本の作成も引き続き行う</p>
<p>2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進</p>	<p>A 8 児童は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒保護者の肯定的割合 90%以上</p>	<p>① 学校図書館の環境整備や利用喚 起を図る。 ・随時蔵書を点検し、図書選定委員 会を通じて、児童の希望や学習に必 要な図書を計画的に補充する。 ・調べ学習等で必要な関連図書を選 定したり、南図書館に協力依頼を 行ったりして、各学年学級に配置 するなど児童が身近に活用できる ように工夫する。 ② 児童が一人一台端末に親しみ、 適切に活用する能力を育成する。 ・授業の中で、一人一台端末等 ICT を活用し協働的な学習場面を工夫 する。 ・ICT 支援員のサポートにより、児 童の一人一台端末の有効活用の向 上を図る。 ・児童の振り返りや学習のまとめな どを一人一台端末で行うなどし て、保護者に児童の学びを知らせ る工夫をする。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 86.8% 保護者の肯定的回答率 84.5% ・児童、保護者ともに目標値を下回っ た。 【次年度の方針】 ・引き続き国語や総合等の調べ学 習等で必要な図書を利用したり、協 同的な学習場面に一人一台端末や ICT を利用したりすることで、児童 が図書や ICT 機器に親しめるよう にする。 ・一人一台端末をはじめとする ICT 機器の活用方法について共有し合 い、ICT 支援員のサポートや校内研 修を利用し、児童や教員の活用技術 の向上を図るようにする。 ・端末の持ち帰りにおける約束事を 学校全体で共有し、正しい使い方の 指導に努める。 ・学校での活用の様子を伝える場を 意識して増やす。例えば、各種便り やホームページを通して、保護者 に向けて学校での活用の様子を伝 える。</p>

2-(3)  
持続可能な  
社会の実現  
に向けた担  
い手を育む  
教育の推進

A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。

【数値指標】

⇒児童の肯定的割合  
90%以上  
⇒教職員の肯定的割合  
85%以上

- ① 環境問題への関心を高め、環境と調和しながら生きる意欲や態度を育成する。
  - ・環境教育を教科横断的に捉え、関連した学習や学級活動において、持続可能な社会のためには、児童本人の行動が深く関わっていることに気づかせ、各学級で児童主体の取組を実践する。
  - ・環境委員会で児童が主体となる活動を設け、資源の節約や緑化など環境づくりを推進するとともに、全校に「持続可能な社会」について周知する場を設け、関心を高める。
- ② 図書資料の充実を図り、SDGsについて、主体的に学べる環境を整える。
- ③ 教育活動全体を通して、人権教育を推進し、違いを認め、他を尊重する態度を育てる。

A

【達成状況】

児童の肯定的回答率 87.8%

教職員の肯定的回答率 77.8%

- ・児童及び教職員はともに目標値を下回り、昨年度よりも減少している。
- ・SDGs 目標 3 や 10 に関連して、世界人権デーやエイズ、ハンセン病問題について、保健だより等に掲載し、SDGs への意識を高めるようにした。
- ・前年度から継続して、SDGs について掲示し、児童の関心を高められるようにした。
- ・掲示物や関係教科での指導を通して、児童の SDGs への意識付けをした。

【次年度の方針】

- ・「持続可能な社会」を実現するためには、一人一人の行動が深く関係することを、学年の発達段階に応じて、各教科や学級活動等を通して気づかせる。
- ・環境委員会の古紙回収や給食での牛乳パック回収等、SDGs につながる様々な活動を全体に周知する場をより多く設ける。

3-(1)  
インクルー  
シブ教育シ  
ステムの充  
実に向けた  
特別支援教  
育の推進

A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。

【数値指標】

⇒教職員の肯定的割合  
90%以上

- ① 特別な支援を必要とする児童に対して、個別の支援計画や指導計画を作成・活用し、保護者・SC・関係機関と連携しながら、情報の共有や適切な支援を学校全体で共有して行うようにする。
- ② 特別な支援を必要とする児童を含むすべての児童にとって分かりやすい授業の展開や、ユニバーサルデザインを意識した指導をし、適切な支援に努める。

B

【達成状況】

教職員の肯定的回答率 100%

- ・目標値を上回った。
- ・配慮の必要な児童について、ケース会議を開くなどして方針を決め、学校全体で共通理解を図りながら、指導・支援を行った。また、必要に応じて、個別支援計画や指導計画などを作成し指導を行った。
- ・どの児童にも、分かりやすい授業や教室環境づくりを目指して取り組んだ。

【次年度の方針】

- ・引き続き、支援の必要な児童だけでなく、どの児童にも分かりやすい授業や教室づくりを学校全体で取り組んでいく。
- ・今後も、支援が必要な児童については、必要に応じてケース会議を開くなどして、学校だけでなく、保護者・諸機関と情報共有しながら児童の支援を協力してできるようにしていく。

<p>3- (2) いじめ・不登校対策の充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 <b>思いやり星</b></p> <p>【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒保護者の肯定的割合 85%以上 ⇒地域住民の肯定的割合 90%以上</p>	<p>① 「いじめをしない、させない、許さない」心を培えるよう、あらゆる時間や場において、人権意識を高める指導の充実を図る。</p> <p>② いじめに関するアンケートや教育相談を定期的に行い、組織的な対応により早期発見、早期対応に心掛ける。</p> <p>③ 児童会を中心とした「いじめゼロ集会」の内容を工夫して行い、思いやりのある行動をする意識を高める。</p> <p>④ 保護者には、学年だよりや学校ホームページに、教育相談や集会の様子、道徳や学級活動等で学習したことなどを掲載し、学校の取組を発信していく。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 95.8% 保護者の肯定的回答率 78.2% 地域住民の肯定的回答率 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童、地域住民は目標値を上回ったが、保護者は目標値を下回った。</li> <li>・児童会が中心となって「いじめゼロ集会」を実施し、いじめに対する意識を高められた。</li> <li>・定期アンケートの他にも、いつでも児童が相談しやすくするため、相談ポストを活用した。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も継続して取り組み、いじめ根絶に尽力する。</li> <li>・児童会主催のいじめゼロ集会や教育相談での取り組みを各種便り等で周知することで、理解を求めている。</li> </ul>
<p>3- (3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実</p>	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒保護者の肯定的割合 90%以上</p>	<p>① 主体的に活動する場面や、活躍できる場面を設定したり、子ども達の思いをよく聞き取り気持ちの理解に努めたりすることで、自分の居場所となるような温かい雰囲気学級経営に努める。</p> <p>② 教室の思ちゃんカードの活用など、児童相互に認め合う場を多く設けるとともに、教職員も認めて褒めて励ます指導に努める。</p> <p>③ 教育相談やQ-U調査結果や普段の児童の様子から、不登校の兆候や傾向のある児童の早期発見、支援に関わる校内全体の情報共有を図る。</p> <p>④ 不登校傾向の児童のためにサポートルームを活用し、支援担当教員などが対応に当たることで、校内に安心できる場所の確保を行う。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 93.5% 保護者の肯定回答率 88.9%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童は目標値を上回った。保護者の回答は目標値と同程度だった。</li> <li>・授業時間だけでなく、様々な活動の中で児童一人一人を見取り、「認め 褒め 励ます」を行った。</li> <li>・教育相談などで、子ども達の気持ちをよく聞き取り、一人一人の理解に努めた。</li> <li>・不登校傾向の児童については、サポートルームを活用して、担当教員が担任と連携しながら指導に当たった。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が居がい感をもてる学級にできるよう経営計画をたて学級運営を行っていく。</li> <li>・心の小さなSOSを見逃さないようにし、不登校傾向の児童が見られた場合には、ケース会議を開き、方針を決め、保護者と連携しながら、対応できるようにする。</li> <li>・不登校傾向の児童がいた場合には、サポートルームを活用して安心できる居場所作りに努める。</li> </ul>
<p>3- (3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p>	<p>① 日常的に児童の見取りを丁寧に行い、児童の話をよく聞き、悩みや困り感に寄り添いながら励ます</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 94.3% 教職員の肯定的回答率 96.3% 地域住民の肯定的回答率 100%</p>

<p>3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化</p>	<p><b>【数値指標】</b> ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上 ⇒地域住民の肯定的割合 90%以上</p>	<p>指導に努める。</p> <p>② 職員間で定期的に児童の情報共有を行い、必要な支援を組織的に行う。</p> <p>③ 学校評価、行事アンケート等を検証し、児童の思いを生かした学校行事、児童会活動、学年活動等を設定し実施する。</p> <p>④ 授業や生活の振り返り活動を重視し、児童が発揮したよさや努力したことが自覚できるような自己評価や相互評価の場を設ける。</p>	<p>B</p> <p>・児童、教職員、地域住民ともに目標値を上回った。 ・学校行事や児童会活動など児童が生き生きと活動し活躍できる場を設定した。 ・児童一人一人をよく見取り認めるような学級経営を行った。 ・授業の中で、児童が活動を振り返り互いに認め合うような学級づくりを行った。</p> <p><b>【次年度の方針】</b> ・児童の意見を取り入れ、児童主体の学校行事や、児童会活動・学年活動などを通して、認め合い助け合える人間関係の醸成に努める。</p>
<p>4-(1) 教職員の資質・能力の向上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p style="text-align: center;"><b>学び星</b></p> <p><b>【数値指標】</b> ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上</p>	<p>① 授業のねらいを明確にし、少人数指導やTT、課題別学習など各学年の実態や各単元に応じた指導法の工夫を図り、個に応じた多様な学習を展開する。</p> <p>② ICT機器を積極的に活用したり教材提示資料を工夫したりして学習意欲を高める工夫をする。</p> <p>③ 朝の学習の時間などを活用して、漢字・計算をはじめ、基礎的・基本的な学習の定着を図る。</p> <p>④ 学習の様子を学校のホームページに掲載し、児童の取組状況などを保護者に発信していく。</p>	<p>B</p> <p><b>【達成状況】</b> <b>児童の肯定的回答率 96.0%</b> <b>教職員の肯定的回答率 100.0%</b></p> <p>・児童、教職員ともに目標値を上回った。 ・本年度の研究主題に向かって、深い学びでの授業改善を行い、児童の意欲や考えの深まりを意識して、少人数やTTなど、個に応じた多様な実践を展開することができた。 ・デジタル教科書や実物投影機、タブレットなど様々なICT機器を活用し、児童の意欲や理解を高めることができた。 ・朝の学習や家庭学習の内容を児童の実態に応じて吟味厳選することで基礎的な学力の向上が図られた。</p> <p><b>【次年度の方針】</b> ・引き続き、児童の意欲を高める工夫や、各学年の実態や各単元に応じた指導法の工夫を図り、深い学びを意識した多様な学習を展開する。 ・個に応じた言葉かけや、課題の提示の仕方など、指導・支援を工夫する。 ・学び合いの目的を明確にし、多様な他者とふれあう場の設定をする。</p>
<p>4-(2) チーム力の向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p><b>【数値指標】</b> ⇒教職員の肯定的割合 90%以上</p>	<p>① 全ての教職員が学校経営方針や学校課題を理解し、それぞれの能力や専門性を生かしながら、学校の諸課題や運営等に相互に連携・協力しながら取り組む。</p> <p>② 校内のOJTを充実させ、チームとしての協働性をより一層高め、若手教員の育成をはじめ、教職員全体の資質向上を目指していく。</p>	<p>B</p> <p><b>【達成状況】</b> <b>教職員の肯定的回答率 96.3%</b></p> <p>・目標値を上回った。 ・それぞれの専門性を生かしながら、教職員全体で協力し、課題に取り組むことができた。 ・日頃から児童理解や学習指導などの情報を共有し、学年の枠を超えて連携し問題解決に取り組むことができた。</p> <p><b>【次年度の方針】</b> ・次年度も学年や業務の枠を超えた連携を重視し、学校の諸課題に適切に対応できるようにする。</p>

<p>4- (3) 学校における働き方改革の推進</p>	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上</p>	<p>① 学年の発達段階に応じて、宿題等でのデジタル機器の活用推進に努める。 ② 行事等の実施後や学期ごとの業務アンケートにおいて、課題や改善案を出し合い、業務の見直しや分散を実行していく。 ③ 地域コーディネーターや学校支援ボランティア等の協力を得て、効果的で効率的な業務の改善に努める。 ④ ミライムや学習情報システム等のネットワークソフトウェアを活用し、ペーパーレス化等を図りながら、業務の効率化を行う。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答率 96.3% ・目標値を上回った。 ・出退勤時刻記録を継続し、超過時間月 45 時間以内を意識した働き方につなげることができた。 ・放課後の電話や来校者対応の時間を勤務終了時刻と合わせたことで、時間外労働の削減に繋がった。 ・教職員の困り感や意見を生かして環境整備や行事の実施方法等の改善を行い、業務の効率化につなげた。 ・学校支援ボランティアを活用した活動（音楽の授業、健康診断等対応等）を新たに実施した。 ・アンケート機能を活用し、ペーパーレス化を推進し事務に費やす時間の短縮化を図った。 【次年度の方針】 ・日課表の見直しを行い、児童と向き合う時間の確保につなげる。 ・業務の改善や学校行事の見直しを図る。</p>
<p>5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上</p>	<p>① 「あいさつ運動」など<u>地域学校園の取組を各種便り、ホームページ等を通して、積極的に保護者や地域に周知する。</u> ② <u>小中学校での相互の授業参観や研究授業の公開、中学校からの乗り入れ授業等の積極的な交流を実施する。</u> ③ <u>各分科会や学校一人配置職員の分科会を通して、地域学校園内の相互支援体制を充実する。</u></p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 91.7% 教職員の肯定的回答率 88.9% ・児童は目標値を上回り教職員は同程度だった。 ・あいさつ運動を中学生と行い、ホームページを通して周知した。 ・地域学校園の学校事務・養護教諭・栄養士・児童指導担当・教務間で積極的な情報交換を行った。 【次年度の方針】 ・宮っ子チャレンジの際、より多くの児童が交流できるように事前計画を工夫する。 ・小中一貫の取組について、学年だよりや掲示物を通して、保護者、児童に発信する機会を増やしていく。</p>
<p>5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p>	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒地域住民の肯定的割合 90%以上</p>	<p>① 保護者による学習支援ボランティアや読み聞かせ、安全ボランティア等の地域教育力を積極的に生かした体験型学習の充実に努める。 ② <u>横川地域学校園の地域人材等について、交流連携分科会において、情報の共有化を図り、活用に努める。</u> ③ <u>学校が地域や企業等の協力を得て、特色ある教育活動を行っていることについて、児童への周知を図る。</u></p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 91.0% 地域住民の肯定的回答率 100% ・児童、地域の目標値ともに上回った。 ・低学年を中心に、保護者と地域住民との関わりが十分にもてた。 ・ホームページを活用し、積極的に発信することができた。 【次年度の方針】 ・総合的な学習の時間を中心に、年計の見直しを行って、継続性や系統性のある教育活動を目指す。 ・引き続き、本校の取組を発信し、保護者や地域に対し、より一層の協力を呼び掛けている。</p>

<p>6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 ⇒保護者の肯定的割合 85%以上 ⇒地域住民の肯定的割合 90%以上</p>	<p>① 毎月の安全点検や定期的な教材・備品等の整理整頓により、危険箇所や不備について迅速な改善に努める。</p> <p>② 危機管理マニュアルの整備や地域防災会との連携協力を行うとともに、校内では避難訓練や引渡し訓練等を通して、不測の事態への備えを万全にする。校内で行った訓練などについてはホームページに掲載し、本校での活動を周知していく。</p> <p>③ 駐車場利用や周辺道路への駐車禁止等に関して、メール配信や各種たよりなどで保護者に周知し、理解や協力を得る。</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答率 86.2% 地域住民の肯定的回答率 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者及び地域住民ともに目標値を上回った。さらに、保護者は昨年度よりも7.7%増加した。</li> <li>・安全点検を全教職員が行い、可能な限り修理修繕に努めた。</li> <li>・不測の事態へ備えるために避難訓練を行い、危機管理能力を高めた。</li> <li>・保護者や地域等に向けて、避難計画や危機管理マニュアルの周知を行った。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全校児童及び保護者を対象に、引き渡し訓練を実施する。</li> <li>・安全に配慮した環境づくりに努めるとともに、ホームページ等で学校の安全計画や活動を周知していく。</li> <li>・駐車場の自由利用や朝の送迎については、周辺道路への駐車禁止等も併せて、理解を促し、今後も協力をお願いしていく。</li> </ul>
<p>6- (2) 学校のデジタル化推進</p>	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。</p> <p>【数値指標】 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上</p>	<p>① 授業の中で実物投影機、デジタル教科書、一人一端末等 ICT 機器を有効活用し、学習活動の充実を図る。</p> <p>② 情報教育主任を中心にした校内情報教育研修や活用実践の共有化により教員の ICT 活用能力の向上を図る。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答率 96.3%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員は目標値を上回った。</li> <li>・一人一台端末を積極的に取り入れ、調べ学習や授業の中の様々な場面で活用したり、校内研修を実施したりすることができた。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器を活用した学習形態の工夫や授業改善により、分かりやすい授業展開を図る。</li> <li>・新しいアプリの使い方や実践事例を共有する校内研修の機会を引き続き設定する。</li> </ul>
<p>小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等</p>	<p>B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 <b>思いやり星</b></p> <p>【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上</p>	<p>① 学級や学年集会等であいさつの大切さを理解させたり、よくできている児童を称賛したりするなど、礼儀やあいさつに対する意識の高揚を図る。</p> <p>② 地域協議会作成「挨拶タスキ」を有効活用し、横川地域学校園、児童会によるあいさつ運動を実施したり、職員自ら明るく元気なあいさつを心掛けたりすることで、あいさつのよさを伝えていく。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 87.3% 教職員の肯定的回答率 85.2%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童、教職員ともに目標値を下回った。</li> <li>・代表委員会児童が中心となってあいさつ運動を実施し、意識の高揚を図った。</li> <li>・日常的に教職員から児童にあいさつをすることで、あいさつのよさを伝えてきた。</li> <li>・小中連携により、中学生とともに挨拶運動を実施することができた。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「あいさつレベル」の掲示物を作成し、教室に掲示する。</li> <li>・職員間であっても、明るいあいさつを心掛けることで、あいさつのよさを児童に広めていく。</li> </ul>

<p>B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p style="text-align: right;"><b>思いやり星</b></p> <p>【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上 ⇒地域住民の肯定的割合 90%以上</p>	<p>① 「学校は社会のルールを学ぶ場である」という共通理解のもと、全教職員で指導内容を明確に把握し、基本的な行動様式の指導を徹底していくことで、習慣化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活目標（短期的な具体目標）を設定し、時間を守ること、言葉遣いや廊下歩行について指導の重点化を図る。</li> <li>・児童会を中心とし、児童主体の活動を行うことで、規範意識の醸成を図る。</li> <li>・道徳科の授業や学級活動を中心として、児童の規範意識、思いやりの心の育成に努める。</li> </ul> <p>② <u>横川地域学校園で推進する時間・言葉づかいの指導の徹底を図る。</u></p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 87.8% 教職員の肯定的回答率 88.9% 地域住民の肯定的回答率 89.5%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童、教職員、地域住民ともに目標値を下回った。</li> <li>・職員の共通理解のもと、ルールを守って学校生活を送ることができるよう指導してきた。</li> <li>・生活目標を作成し、学級に掲示することで、意識の高揚を図った。</li> </ul> <p>【次年度の方針】 ・今後も継続して取り組み、学校内外でルールやマナーを守れる児童の育成に努める。</p>
<p>B3 児童は、児童主体の活動やボランティア精神の涵養を図る勤労体験活動に主体的に取り組んでいる。</p> <p style="text-align: right;"><b>働き星</b></p> <p>【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上</p>	<p>① 縦割り班清掃、クリーン活動と勤労タイムを一本化して児童が主体的に取り組めるよう、引き続き、計画的・継続的に実施する。</p> <p>② 米作り体験や教材園などの栽培活動を計画的・継続的に実施する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 89.0% 教職員の肯定的回答率 96.2%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員は目標値を上回ったが、児童は目標値を若干下回った。</li> <li>・縦割り班での清掃で、異学年での交流ができており、上級生が中心となって活動を行うことで、児童の主体性が育っている。</li> <li>・米づくり体験や教材園などの栽培活動は十分活動できた。</li> </ul> <p>【次年度の方針】 ・引き続き、児童が主体的に清掃活動に取り組めるよう、計画を立てたり、振り返りを実施したりする。</p>
<p>B4 児童は、友達と一緒に学ぶことにより、自分の考えが変わったり、新しい考えに気付いたりするなど学びを深めている。</p> <p style="text-align: right;"><b>学び星</b></p> <p>【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 80%以上 ⇒教職員の肯定的割合 80%以上</p>	<p>① 多様な考え方に触れ、互いのよさをいかしながら協働的に課題解決に取り組めるような学び合いの場を工夫する。</p> <p>② 自分の考えを表現したり友達に考えを説明したりして、コミュニケーション力を伸ばすための学習活動を行う。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 87.3% 教職員の肯定的回答率 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・教職員ともに目標値を上回った。</li> <li>・「学び合い」を学校課題に掲げ、児童が書いたり話したりしたことを、友達と共有し、多様な考えに触れる場面を授業展開に設定した。</li> <li>・自分の意見を自信をもって話す大切さや他者から学ぶ面白さを、実感を伴って感じられるよう、引き続き活動の改善が必要である。</li> </ul> <p>【次年度の方針】 ・児童の学びが深まるような課題設定の工夫や、学び合いの場の工夫に努める。</p>

## 〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

### 【本校重点目標の視点から】

#### 「思いやりの心の育成」

・項目 A2 の児童の肯定的回答率は 86.3% であり、数値指標 90% を若干下回った。保護者の肯定的回答率は数値指標の 90% を上回った。次年度も継続して「思ちゃんコーナー」の活用や縦割り班活動、縦割り班清掃による異学年交流の充実等により、児童同士が互いの優しさに目を向ける活動を実施する。特に人権教育活動では、「人権週間」が学校全体で人権意識の高揚を図る週間となるよう更なる活性化を図る。

#### 「学力向上」

・項目 A14 の児童の肯定的回答率は 96%、教職員は 100% であり、数値指標の 90% を上回った。児童一人一人の学びの充実に向け、少人数や TT、教科担任制などの実践を展開した。教員同士が授業を見合う機会をもち、意見交換をしながら、授業力の向上を図った。

・項目 B4 は、本校の研究主題「見方・考え方を働かせ、学び合う児童の育成～深い学びの視点からの授業改善」の指標として今年度新たに設定した。児童、教職員とも数値指標 80% を上回った。児童が友達と意見交換をする中で、様々な考えに触れる面白さ、自己の学びの変容が感じられるよう、引き続き研究を進め、活動の質を高めていく。

#### 「健康教育」

・項目 A4 の児童の肯定的回答率は数値指標と同程度、教職員は上回った。養護教諭が感染症の流行傾向を察知し、児童に感染予防に必要な情報を提供したり教員に環境整備を指示したりして予防に努め、児童の意識高揚を図った。学校栄養士は日常的に給食指導中の学級を周り、食育に関する情報を児童へ届けた。避難訓練はめあての確認と振り返りを行い、自分の身は自分で守るために必要な知識理解を図った。次年度は、複数回訓練の良さを生かし、自分で判断する内容の難易度を上げるなどしながら指導の従事に努める。

#### 「地域とともに歩む学校づくり」

・項目 A17 の肯定的回答率は、児童が数値指標を上回り、教職員は同程度だった。中学校とはあいさつ運動や乗り入れ授業の実施、中学校訪問、卒業生に関する情報交換等の場を通して連携を図った。学校事務・養護教諭・学校栄養士・児童指導担当・教務は、3校での情報交換を密に行い、相互支援、相互理解を図り、学校運営の向上に生かすことができた。

・項目 A18 の肯定的回答率は、児童及び地域住民ともに数値指標を上回った。市の平均も上回っており、本校の地域とのつながりのよさが結果として表れている。周年行事を実施する際には、保護者及び地域が主体的に企画・運営を行い、児童や出席者の思い出に残る式を盛大に実施することができた。

#### 〈学校運営〉

・項目 A15 の肯定的回答率は数値指標を上回り、市の平均も上回った。文科省調査官や市の指導主事の指導を仰ぎながら、本校の研究主題「見方・考え方を働かせ、学び合う児童の育成～深い学びの視点からの授業改善」に向けて、図画工作を中心に「深い学び」につながる授業改善について全教職員で研究にあたった。児童指導についても情報を学校全体で共有し、即時解決に向けて組織的に対応することができた。

・項目 A16 の教職員の肯定的回答率は数値指標を上回った。96.3% は市の平均 88.6% を大幅に上回っている。今年度は特に学校支援ボランティアを活用した活動を充実させ、効果的で効率的な業務の改善につなげることができた。

## 7 学校関係者評価

### 【学校参観より】

・新体育館が新しくて広くて素晴らしい。子供たちの教育活動に有効に活用してほしい。  
・どの学級も落ち着いて学習に取り組んでいる。1年から3年生までが2クラスになっていて、児童数の減少を目の当たりにした。  
・5、6年生の合同授業を参観した。6年児童が丁寧に5年児童に教えていてとても感動した。教育の場に児童一人一人の得意分野を発揮する場があることはとても良いことであると感じた。

### 【マネジメントアンケート結果を受けて】

・「あいさつ」は昨年度に比べて肯定的回答が昨年度よりも下回っているが、あいさつができる子は増えた実感を持っている。今後も、教員同士、保護者同士等、大人もしっかりとあいさつをし、あいさつの指導を継続してほしい。

・「いじめ」に関する項目は、児童、教員、地域の肯定的回答に比べると保護者の回答は低くなっている。学校の取組が保護者に伝わるような工夫があるとよい。

・「思いやりの心」を育む指導を今後も継続的に行ってほしい。

・地域とのつながりがとても強い学校なので「宇都宮の良さ」と共に「横川地区の良さ」を知る機会をさらに増やしていただきたい。

・マネジメントシステムのアンケートの肯定的回答率が、教員と保護者に差がある項目がいくつか見られる。もっと学校

側のことを保護者に伝える、伝えられるきっかけづくりを協議会でも考えていきたい。

・昨年度に比べて肯定的回答数値が下がっていると感じるが、評価者がよく学校や児童、教職員を観察しているからだとも考えられる。このまま全体的に見守っていいと思う。

## 8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・ほとんどの項目において数値指標を上回るもしくは同程度という結果だった。令和6年度の結果を受けて数値指標を高く設定した項目の一部が数値指標を下回ったが、概ね85%の肯定的回答が得られており、学校全体として良好な状況にあると考える。

・A13「学校は一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」、A15「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」、A19「学校は利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」、A18「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」の肯定的回答率は、数値指標を上回っている。これらの項目は、本校の学校経営理念である「楽しい学校」づくりにつながる項目であり、学校経営の方針を受けて実施している各教育活動が、児童をはじめとする学校関係者全てにとってよい評価を得たと捉える。今後も、児童・教職員・保護者・地域が共に学ぶ楽しい学校を目指し、理念をもとに全力で教育にあたっていく。

・日常的に地域学校園各校の取組の実情を把握し、情報の共有を図っている。学校関係者評価の意見に、横川地区のよさを伝える活動の充実がった。地域活動の中には、地区の文化祭や体育祭、花いっぱい活動等、学校園の児童生徒を対象にしたものがあり、地域の方々や地域の子供達のために行っている。今後も児童への参加を促し、児童の横川地区への理解や愛着心の涵養につなげていく。

・自己肯定感が低い傾向にあることから、学級活動、クラブ活動、委員会活動等を通して児童の主体性を重視した教育活動を行ってきた。地域学校園の教育ビジョン「主体的に行動できる子供の育成を目指す」達成に向け、次年度も特別活動の充実を図ると共に、自分のよさを実感できる活動（自己の振り返り、友達の良さを認めあう、他者からの承認等）を実践していく。

・学校関係者から保護者の評価が他の評価者に比べて低い数値になっているという意見があった。昨年度も同様の意見があり、学校はHPや学級懇談の折に学校の取組について伝えてきた。次年度も今年度の取組も継続するとともに自由参観の活用や魅力協委員の協力を得ながら、保護者への啓発に力を入れていく。

・あいさつについては、継続的に指導していく。学校関係者の意見にもあったように、児童同士だけでなく、大人（教員、保護者、地域）同士もあいさつを行い、学校全体で気持ちのよいあいさつの習慣化を図っていく。低学年のあいさつがとてもよいので、称賛し、6年間継続できるような環境づくりに努めていく。

・保護者、地域が「児童が楽しいと感じる」ということに重点を置いて様々な教育活動に協力している。「児童が行きたい、保護者が通わせたい、教職員が勤めたい学校づくり」を目指し、チーム学校一丸となって教育活動の改善・発展に努める。